

会議の状況

令和3年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会（書面開催）

1. 開催期間 令和3年10月27日(水)～令和3年11月18日(木)

2. 開催方法 書面開催

3. 参加委員 22名

4. 提出資料

資料1 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(令和3年度第1四半期報)

資料2 原子力施設環境放射線調査報告書データ集(案)(令和3年度第1四半期報)

資料3 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)(令和3年度第1四半期報)

参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

会議の状況

5. 概要

(1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果について(令和3年度第1四半期)

以下のとおり了承された。

(ア) 原子燃料サイクル施設

・原子燃料サイクル施設に係る令和3年度第1四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

(イ) 東通原子力発電所

・東通原子力発電所に係る令和3年度第1四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

(ウ) リサイクル燃料備蓄センター

・リサイクル燃料備蓄センターに係る令和3年度第1四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果について(令和3年度第1四半期)

・水温・塩分、水質及び生物等の各調査結果は、概ねこれまでの調査結果と同様の範囲であった。

(2) 評価委員会意見及び回答

資料1 原子力施設環境放射線調査報告書(案) (令和3年度第1四半期報)

委員意見	回答
[p28] ストロンチウム-90の分析、アブラナの件、過去の大気圏内核実験に起因するストロンチウム-90の自然変動によるものと考えられるとしているが、これは壊変による減衰ということか。【佐藤委員】	委員から御指摘のあった「壊変による減衰」も含め、調査地点の自然環境における変動と判断し「自然変動」と表現している。【県】

資料3 東通原子力発電所 温排水影響調査結果報告書（案）（令和3年度第1四半期）

委員意見	回答
<p>[全般] 北海道沿岸の赤潮など、これまではなかったような海域環境の変化も見られる。原子力施設の海域環境への影響との区別についてはどのように考えていくことになるのか。 【佐藤委員】</p>	<p>水温や植物プランクトンの出現種など観測結果が経年変化の範囲から大きく外れていても、周辺海域で同様な傾向が出ている際は、原子力施設の影響ではなく自然要因によるものである可能性が高いと考えられる。 海洋環境全体の変動か、当該海域のみのスポット的な変化なのかJAXA等が提供する衛星データ等を合わせて検討し、調査を継続する。【水産振興課】</p>
<p>[全般] 温排水の報告書の資料で図表が小さくなっているが、報告書では今までどおりの印刷になるのか。【野村委員】</p>	<p>御指摘のとおり、報告書を製本する際はこれまでどおりの大きさの図表となる。【水産振興課】</p>